

日本語要約・臨床解説

患者が考える「よい歯科医療」は、治療技術だけで決まらない。

安心、説明、尊重、継続した関係。患者の声を統合した研究から、診療体験を点検する。

医療の質 / 質的研究レビュー

多様な診療環境の36研究。

研究デザインと対象の違いを踏まえて解釈。

01 研究の要点

目的

患者自身が歯科医療の質をどのように捉えるかを整理した。

方法

2025年7月まで6データベースを検索。質的・混合研究36件を、Donabedianの枠組みとテーマ分析で統合した。

結果

主なテーマは、信頼を支える組織的条件、熟練者に任せられる安心、尊重・共感・説明・共同意思決定、継続した関係の4つだった。

結論

技術的な能力を直接判断しにくい患者にとって、対人関係や診療の仕組みも質を判断する大切な手がかりになる。

読み取れること

1. 患者の認識を扱う質的研究で、治療効果の比較ではない。
2. 1回の説明だけでなく、受診を重ねた関係が重視される。
3. 組織の対応と歯科医師個人の対応を一緒に見直す視点。

02 臨床で考える

患者が「安心して通える」と感じる要素を、院内で共有できているか。

1. 受付から会計までの体験をたどり、説明の食い違いや相談しにくい場面をスタッフと点検する。
2. 治療選択肢を説明した後は、患者が重視することを確認し、その内容を次の担当者へ引き継ぐ。
3. 改善の聞き取りでは満足度の点数だけでなく、安心できた場面・困った場面を具体的に尋ねる。

患者に好まれることと、独立した臨床評価で優れた治療であることは同一ではない。

臨床で深く読む

原著の報告と編集上の解釈を区別した解説です。AI編集・歯科医師未監修。

患者の「良い歯科医療」は、技術の評価だけでは捉えきれない。

質的研究では、患者が尊重されること、説明や共同意思決定、関係の継続が医療の質の核として語られた。これは満足度を上げる施策の効果試験ではなく、患者が何を手がかりに質を判断するかを整理した研究である。

対象

歯科医療に対する患者の経験・価値観を扱う36研究。多様な集団と診療場面を含むが、総人数は抄録に記載なし。

介入・評価対象

患者が捉える医療の質を、Donabedianの構造・過程・結果の枠組みで主題統合。

比較

介入群と対照群の比較ではない。質的研究および混合研究法の知見を統合した。

評価項目

安心、臨床能力への信頼、人との関わり、関係の継続など、患者が語る質の要素。

追跡・評価時点

検索は2025年7月まで。各研究の観察期間は抄録では不明。

結果の大きさを、診療の視点で読む

質を構成する主題

原著の報告：組織・構造への信頼、熟練者に任せる安心、対人関係、長期的な関係の継続という4主題に整理された。

臨床での読み方：待合から説明、再診までを含めて患者経験を見直す材料になる。4主題に順位や配点が付いたわけではない。

評価の手がかり

原著の報告：技術を直接評価しにくい場面では、感情面・関係面・組織面の特徴が質を判断する手がかりとして語られた。

臨床での読み方：感じの良さを技術的安全性の代用にしてよいという意味ではなく、患者側の評価過程を理解する知見である。

目の前の患者に、どこまで重なるか

研究に近い条件：医院の患者アンケートや説明の仕方を見直し、患者の自由記述を構造・過程・継続性に分けて読む場面。

未確定の範囲：特定の接遇施策が再診率や治療成績を何%改善するか、日本の患者で同じ主題の重みになるかは示されていない。

質的統合の位置づけ

36は研究数であり、各主題を支持した患者の割合ではない。投票結果や重要度ランキングに置き換えない。

評価方法と診療背景

JBIの吟味ツールを用いているが、各研究の評価結果は抄録にない。多様な診療背景をまとめた結果を自院の全患者に一律適用しない。

自院で検討するなら

- ・ 自由記述を「説明が分かった」「意向を聞いてもらえた」「担当が替わっても話が伝わる」など具体的な経験に分け、該当する主題を確認する。
- ・ 患者に好まれた対応と、技術面で必要な医療の質管理を別々に評価し、どちらか一方の点数で全体を判断しない。

患者さんへの説明例

歯科医療の質について患者さんに聞いた研究では、治療の技術だけでなく、安心して話せることや、説明を受けて一緒に考えられることも大切とされました。治療を受ける中で分かりにくかった説明や、気になる対応があれば、次の相談で具体的にお聞かせください。

患者の希望と治療条件に合わせ、歯科医師が内容を検討するための研究説明例です。個別の治療結果を保証するものではありません。

同僚と考える問い

患者さんの「丁寧だった」という感想を、説明・尊重・継続性のどの具体的な診療行動として振り返っていますか？

コメントする：<https://nakanoyuyadental.com/articles/patient-defined-dental-quality#comments>

臨床解説の確認資料：原文抄録（PubMed）（Methods / Results / Conclusions（質的研究は主題・解釈を含む））
<https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/42703647/>

研究の限界・解釈上の注意

- ・ テーマの存在を示す研究で、各要素の頻度や効果量は算出していない。
- ・ 国や患者集団、診療の仕組みが異なる。
- ・ 結果を歯科医師の順位付けや技術評価へ転用できない。

・ 原文抄録を確認。全文の方法・補足資料は未確認。

03 原著・資料の範囲

How Patients Define Quality in Dental Care: A Qualitative Systematic Review.

Tay AHC, Chow DY, Ng E, Chen SMS, Ong YJ, Tay JRH.

Journal of dental research | 原著公開日：2026-09-07

PMID：42703647 | DOI：10.1177/00220345261474417

PubMedで原文抄録：<https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/42703647/>

出版社の原著：<https://doi.org/10.1177/00220345261474417>

資料確認・作成日：2026-09-15

収録範囲：既存の日本語要約と編集上の臨床解説。原著全文の翻訳ではありません。確認範囲と未確認事項は上記の限界欄に記載しています。

免責事項：AI作成・歯科医師による監修未実施。医療者の学習用資料であり、個別患者への診断・治療指示ではありません。臨床判断に用いる前に原著と最新の診療指針を確認してください。